



こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口 明子 ☎047-767-5030 植田 進 ☎047-487-9754
伊原 忠 ☎047-488-7207 飯川英樹 ☎080-1239-8132

ホームページへ▶

市議団ホームページ <http://jcp-yachiyo.jp/>
共産党控室メール kyousan@city.yachiyo.chiba.jp



第436号

2019年12月23日

発行

日本共産党
八千代市議会議員団

八千代市大和田新田
312-5

阿蘇小の増改築こそ住民の願い

市教育委員会は、令和2年度の教室不足について、図書室を改修し本類はPCルームに移して運用すると説明、令和3年度は校長室や保健室を移動するしかないと話していました。これでは本来の学校としての機能は果たせません。阿蘇地域の子どもたちを犠牲に悪い環境でも「我慢して勉強しなさい」とでもいうのでしょうか。

12月議会で、教室不足の対応策について保護者を対象に説明会を行なったか尋ねました。教育委員会は「阿蘇・米本地域の教育環境を速やかに、かつよりよく整えることが重要で、小学校3校を米本南小の位置に統合し、施設分離型の小中一貫校にして、将来的に義務教育学校を目指す」と答弁しました。これまで教育委員会は、阿蘇米本地域の児童数の減少を見込み、統廃合が必要と説明してきました。しかし阿蘇小学校の児童数は、今後とも増加が見込まれています。教室不足問題を統廃合で解決しようというのは、「まちづくりは、住民とともに進める」という住民自治の理念に反する行為と言わざるを得ません。

統廃合ありきの姿勢こそ大問題

東京成徳大学とセットで開発されたもえぎ野の宅地造成（800戸）は、人口増、児童数の増は予想されていましたが、「阿蘇小学校は増築などで対応し、現在地のまま残す」（中村和平市長時代）と決定しました。したがって、学級増になった場合は増築を行うことは当たり前のことです。

現在、もえぎ野団地の住宅戸数が300戸を超え予想通り、阿蘇小の児童が増え、教室が足りなくなっています。教育委員会は平成30年5月に教室が足りなくなることを把握していました。しかし、「統廃合ありきで、何の対策もとってこなかった」教育委員会の姿勢こそ問われなければなりません。

教室の増改築で学ぶ権利の保障を

教育委員会が早急に解決しなければならないことは、来年の4月からの教室不足を解決することです。図書室や保健室をなくして、一時しのぎをするのではなく子どもにとって安全・安心ができる充実した学校施設にすることです。小中一貫校にすれば阿蘇小は廃校にするので、わざわざ教室を増改築することは「金の無駄遣いだ」というのが市と教育委員会の本音だとするなら許されることはありません。



日本共産党は、阿蘇小の子どもたちの学ぶ権利を保障し、地域の人々の願いでもある教室の増改築のために全力を尽くします。